十一月十日 関西日報



## 日報評

### 面白い今後

宇治電が、商船系の力を以て新市會に勢力を得、一方水力會社を合併して、その實力を養ひ、以て大電系に當らんとする挑戰的態度が明白になつて來たに對し、大電系は何を以てこれに備ふるかは興味ある問題として、過日の紙上に一言して置いたが、今度大電が重役の多數を補充して、その陣容を堅固にすること、なつたのは、過日我輩の所論近く何等かの陣容充實を見るだらうと言つたことと、偶然だが、符節を合した譯である。大電では別にその意味で補充するのでないか知らぬが、折柄面白い今後の競爭準備とせられぬでもない。

### 同盟益固し

大電が、重役の大補充を敢行することは、宮崎社長の背景を強固にするといふにあるが、これと共に豫想せられる頃闘れが實現せば、昨年來成立した北濱系、名港系、京阪系、京電系の大同團結が茲に愈々強固となつた譯で、大電を基礎とし、京阪電鐵、京都電燈、名古屋電燈を柱として大同電力の新威力を如何に發揮するか愈々興味ある場面となつた。我輩は之れに對し、宇電の愈々益々健闘せんことを祈むものなると共に、これによつて幸に我電業界の迅速な發達を見ることを得ば、何よりの幸福とするものである。

# 頑冥資本家を啓發

## 大阪工場主懇話會は

### 勞動者との衝突を避ける爲

## 資本同盟とは全く別の目的を以つて組織

### 栗本商議副會頭談

過般本欄に於いて府が主唱して勞働者に對抗する爲資本同盟を組織する議あるを記載し、時局に鑒みざるも甚敢しき行爲なりと反省を促がし置きたるに對し、本問題の措策に努めたる栗本勇之助氏は吾々の主旨が全く憚り傳へられたるを遺憾とすと前提し近く創立委員會を開く大阪工場懇話會組織に關し次の如く語つた。

近時各工場に勃發しつゝある勞資爭議は、產業問題を超過して今や其大半は治安警察問題として取扱はねばならぬ狀態にあることは何人も認むる處である。勞働問題の本質を離れて治安警察問題に及びたるは甚だ遺憾とする者であるが、ことを茲に到らしめたるは、頑冥な資本家が其責の大部分を負はねばならぬ。從つて警察力を以てしても、尚迅速に圓滿なる解決を告ぐる能はざる、近時の爭議を培養者たる資本家が同盟の力に依つて快刀亂麻を斷つ底の解決を告げんとするは恐も極まれる馬鹿(ママ)の沒と謂はねばならぬ。

#### 團體組織は自家撞着

覺醒せざるが故に當時の爭議を惹起し乍ら、從來の態度を改めずして勞働者が團結したから資本家も團結の力に依つて之に對抗せんとするは、時局を益々悪化せしむるのみならず、自家撞着も甚敢しいものである。

#### 乃ち現在資本家は勞働者の團體交渉權を否認して居る。勞働者の團體權を認めざる資本家が同盟して勞働者に對抗せんとするは、自家撞着にあらずして何ぞ。これ一部頑冥者流が自己の非を棚に上げて勞働者の利益を横奪せんとする舊時代の型に屬する、勞働問題の罪毒者である、吾々が今回工場懇話會を組織せんとする趣旨は、實に斯くの如き頑固なる資本家を啓發し、勞資兩者の利益を增進せんとせるにある、これが世間に謬り傳へられたるものである。

#### 慾と慾との唯一つ合ひ也

名を記すを憚るが、過般勞働爭議を惹起せる某工場主は工業會常任理事會に出席して、資本家の援助を希ふと陳述されたから吾々は其誤謬に陷れる點を指摘し反省を促がしておいたが、此の種人物が尚多々あるを以つて、吾々は勞働問題を善導する意味に於いて、之を啓發する責任を痛感する。

而して資本家の啓發は頗へて難事でない一例がある、先日工業會にて技術家出身の某大會社長が、勞働者の要求(我々が聞いても尚極度の讓歩である)を獨斷で容れ、後日重役連から攻撃された其理由を說明して曰く、要するに爭議の中心は慾である。慾と慾との爭議を解決するは厚き利益を享けつゝある資本家の利益を譲渡することに依つてのみなされるものであると信ずと、此の言たるや實に名言であつて好景氣時代の爭議と今日の爭議とは其爭議點が幾分異なれりと雖も、根本思想は人間性に深く根を張れる慾である、現代資本家もこの理を辨せぬではないが、進んで之を公言し實行するの勇氣ある者は稀であるのに、この資本家を得たるは吾々の欣快とする處にて、總べての資本家が斯くならんことを希望し開處に到達せんとする運動が今次の懇話會である(未完)